

**版权声明:**

本论文来源于日语论文网:<http://www.riyulunwen.com/> , 转载请注明出处!

## 要 旨

本論の題目が「宮崎駿作品中での女性登場について」といって、宮崎作品の中で登場する女性を通して宮崎駿の世界に見る女性観がわかる。

宮崎駿というアニメ監督がいる。いわずと知れた、日本を代表するアニメーション作家のひとりである。宮崎監督はこれまで、いくつもの名作を作ってきているが、そこで扱われるテーマは「人間と自然の関わり」であったり、「人生の挫折と成長」であったり、あるいは「人生のロマン」であったりと、いつの時代も変わらず人が模索し続けるものであった。宮崎監督はそのテーマに対し、宮崎監督なりの思いを描いてきている。

「宮崎アニメ」というだけで観客を集められる程の絶対の信頼を観客から得ている。宮崎監督の作品の特徴を探る上で、全作品には一つの共通点が見えてくる。それは、「女性」が登場するってことである。

宮崎作品には、女性に主眼を置いて描かれている作品が多くある。それは主役でなくとも、準主役として、名脇役として、全ての作品にある。そして、その女性の描き方が現実以上と思えるほどに、リアルで生き活きと描かれている。それらはまるで『女性自身』が描いたかのようなリアルな女性像だと感じたりもする。宮崎監督の作品での女性形象を分析してみると、「女は自然、男は文化」という従来の構造とは異なり、「女も文化」という新しい構造を生み出しているのではないか。また、宮崎作品の女性たちはヒロインだけでなく誰もが魅力的で賢く優しい女性たちである。きっと監督は従来の女性像「従順」「やさしい」というイメージを打破して、新しい女性像を作りたかったのではないだろうかと思う。

## キーワード

宮崎駿作品、女性形象、原因、女性観

## 内容提要

本文以《关于宫崎骏作品中女性登场》为题，通过作品中女性登场来体现宫崎骏世界的女性观。

宫崎骏监督是众所周知的日本动漫作家代表之一。到目前为止，宫崎骏监督完成了很多的名作，主题大多是和“人类和大自然的关系”，“人生中的挫折与成长”或者“人生的浪漫”等，任何时代都在持续摸索着。宫崎骏监督对那个主体思想有着自己的看法。只要是“宫崎动画片”就能聚集观众，得到观众绝对的信赖。研究宫崎的作品后，能看出它们都有一个共同点，就是每部作品中都有女性出场。

在宫崎骏作品中，很多是以描写女性形象为主。即使不是主角，也是以配角等其他角色在宫崎骏所有的作品中出现。并且作品中对女性的描绘手法十分的真实，被勾画地即逼真又生动。那给人的感觉，简直像是『女性自己』描画出的现实中的女性形象。通过对宫崎骏作品中女性形象分析认为：与「女人自然，男人文化」的以前的构造有差异，产生出了「女人也是文化」这一新的构造。并且，宫崎作品的女性不仅仅是女主人公，誰都是富有魅力、聪明而又善良的女性。宫崎监督一定是想打破一贯的女性的「温顺」「和善」的形象，打造一个新的女性形象。

## 关键字

宫崎作品、女性形象、原因、女性观

## 目 次

はじめ	4
第一章 宮崎駿とその作品	4
第一節 宮崎監督の歴史	4
第二節 宮崎作品概況	5
第三節 宮崎作品の共通点「女性」	7
第二章 宮崎作品における女性	9
第一節 典型的な女性形象の分析	9
第二節 女性が登場する原因	9
第三節 宮崎作品から見る女性観	11
終わりに	12
参考文献	13
謝辞	14
文献口述	15

## 宮崎駿作品中での女性登場

### はじめ

筆者は子供の時から日本のアニメーションが好きである。初めての印象は、「鉄腕アトム」と「ドラえもん」である。とても楽しんで見た。しかも、アニメからいろんな日常知識も身につけた。アニメは娯楽の世界だけでなく、教育などの分野にも広がっていると考えられる。筆者の年とともに、多くのアニメを見た。その中で圧倒的なのは宮崎作品である。それで、宮崎監督についての研究資料もよく読んだ。それとともに、筆者自らの考えも出て来る。

宮崎駿というアニメ監督がいる。いわずと知れた、日本を代表するアニメーション作家のひとりである。宮崎監督はこれまで、いくつもの名作を作ってきているが、そこで扱われるテーマは「人間と自然の関わり」であったり、「人生の挫折と成長」であったり、あるいは「人生のロマン」であったりと、いつの時代も変わらず人が模索し続けるものであった。宮崎監督はそのテーマに対し、宮崎監督なりの思いを描いてきている。

「宮崎アニメ」というだけで観客を集められる程の絶対の信頼を観客から得ている。宮崎監督の作品の特徴を探る上で、全作品には一つの共通点が見えてくる。それは、「女性」が登場するってことである。この共通点はいったい何を表しているのか。なぜ、監督の作品にはこれだけ「女」が登場するのか。宮崎監督の世界で、どんな女性観が持たれるのか。これらについて、考えてみたい。

## 第一章 宮崎駿とその作品

### 第一節 宮崎監督の歴史

宮崎駿監督は 1941 年 1 月 5 日生まれる。59 年学習院大学政治経済学部に入學し、63 年卒業した。同年東映動画（現在は東映アニメーション）に入社した。66 年『太陽の王子ホルスの大冒険』に参加し、場面設計・原画を担当する。71 年東映動画を退社し、高

畑勲氏、小田部羊一氏と共に A プロ（現在はシンエイ動画）へ移る。73 年劇場用中編『パンダコパンダ 雨降りサーカスの巻』の脚本・画面構成・原画の担当になった。その年に高畑、小田部両氏と共にズイヨー映像へ移籍した。74 年テレビシリーズ『アルプスの少女ハイジ』の場面設定・画面構成を全 52 話の担当であった。76 年テレビシリーズ『母を訪ねて三千里』の場面設定・レイアウトを担当した。78 年 NHK 初のテレビシリーズ『未来少年コナン』の演出であった。79 年東京ムービー新社へ移り、劇場用長編作品『ルパン三世 カリオストロの城』を初監督になった。82 年マンガ『風の谷のナウシカ』の連載開始。その年に東京ムービー新社を退社した。83 年『風の谷のナウシカ』の映画化を始動した。84 年映画『風の谷のナウシカ』が完成し、個人事務所「二馬力」設置した。そして 85 年スタジオジブリを吉祥寺に設立。92 年に現在の小金井にスタジオを移し、現在に至る。

## 第二節 宮崎作品概況

1979 年『ルパン三世 カリオストロの城』

贗札「ゴート札」の出所を追ってヨーロッパのカリオストロ公国にやってきたルパンと次元は、そこで何者かから逃れようとする花嫁姿の少女クラリスを助ける。クラリスは亡くなった大公夫妻の息女で、摂政である伯爵との謀略結婚が定められていた。かつて幼い彼女に命を助けられたルパンは、クラリスを伯爵の手から奪略し救うべく、カリオストロ城へ潜入し、そこで城の大きな秘密を目撃する。手に汗握るストーリー展開、緻密で重層的な舞台設定、ルパンの大跳躍、時計塔の大活劇、水中から出現するローマ遺跡やルパンとクラリスの切なくも爽やかな別れなど、絶え間なく観る者を惹きつける。宮崎監督初の映画監督作品である。

1984 年『風の谷のナウシカ』

巨大産業文明が崩壊してから 1000 年後、わずかに残った人類は有毒を振りまく「腐海」に脅えながら暮らしていた。辺境の村「風の谷」の長の娘・ナウシカは腐海の主・王蟲と心を交わせる不思議な能力を持った少女。ある日、村に侵攻してきた軍事国家トルメキアは風の谷へ侵攻し、旧世界の最終兵器・巨神兵を甦らせ、世界を統率しようとしていた。トルメキアに国を奪われたペジテ軍が、王蟲の怒りを利用して風の谷を襲わせ、トルメキア軍を破滅させようとしていることを知ったナウシカは、一人それを阻止しようとする。ナウシカと王蟲との心の交流を軸に、人間のエゴや環境問題など現代社会の病理に踏みこんだ深刻な展開が、社会的な大反響を呼んだ。現在に至るいわゆる「宮崎アニメ」の出発点となった作品である。

### 1986 年『天空の城 ラピュタ』

19 世紀初頭。炭鉱の街で働くみなしごの少年パズーの前に、突然空から一人の少女が降りてきた。少女シータの胸に光るものは、空を飛ぶ力を持つ「飛行石」だった。この石が、かつて地上の国々に君臨し、今も空中を漂い続ける「ラピュタ帝国」の謎を秘めていることを知る軍の特務機関のムスカはシータを捕らえる。だが、パズーは同じく飛行石を狙う空賊と協力し、シータの救出に成功。ラピュタの正体を知るために船に乗り込んだ 2 人は嵐に巻き込まれ、導かれるように天空の城ラピュタを発見する。スウィフトの「ガリバー旅行記」に登場する空中の浮島・ラピュタをヒントにした、宮崎駿氏オリジナルストーリーによる一大冒険活劇である。

### 1988 年『となりのトトロ』

昭和 30 年代のとある農村。考古学者である父親とともに、「おばけ屋敷」と呼ばれている廃家に引っ越してきたサツキとメイの幼い姉妹は、母親が入院のため不在であることにもめげず、豊かな自然やおもしろい生き物たちと触れ合い、日々をたくましく生きていく。やがて塚森の中にいる不思議な生き物・トトロと友達になった姉妹は、夜空を風になって飛ぶ夢のような冒険を味わう。久々に母親が帰宅するはずだった日、体調の異変を知らせる電報が病院から届く。そんな中メイが迷子になり、サツキはトトロにメイを探して欲しいと頼む。四季の自然の美しさを背景に、考古学者のお父さん、サナトリウムで静養中のお母さん、優しいお婆ちゃん、純情少年カン太、そして風のように疾走するネコバスなどの優しく暖かな印象を残すキャラクターたちが登場し、姉妹とトトロとの心温まる交流を描いたファンタジーアニメの傑作である。

### 1989 年『魔女の宅急便』

13 歳になった魔女のキキは、魔女として一人前になるために、見知らぬ街で自活しなければならない。修行のために自分の住む街を探したキキは、パン屋の夫妻宅に下宿し店を手伝いながら、空を飛べるという自分の才能を活かして宅急便の仕事をすることにした。新しい生活を持前の明るさで切り開いていこうとするが、人とのすれ違いや自活の辛さに次第に自信を失くしてしまう。そしてある日、キキは魔法が弱まりジジと話せなくなり、遂には空を飛べなくなってしまった。同名の児童文学だった原作を一人の少女の自立物語へと引き上げ、「空を飛べる」というのを一つの才能と捉え、社会で働く女性たちへのエールを贈った映画である。

### 1992 年『紅の豚』

1920 年代、第 1 次世界大戦後のイタリア、アドリア海。元空軍のエースパイロットだったが、自らに魔法をかけて豚に姿を変えたポルコ・ロッソは、愛機で空を駆け回り賞金稼ぎで日々暮らしていた。ところが、空賊連合が雇ったアメリカの飛行艇乗りカーチス

に愛機を大破され、ミラノのピッコロ社に修復を依頼する。しかし、ファシズムの台頭下その存在を狙われたポルコは、設計担当の 17 歳の少女フィオを乗せて急遽アドリア海に戻る。そこでポルコは、再びカーチスとフィオの結婚を条件に修理費用をかけて決闘をする羽目になる。宮崎流のかっこいい生き様を描いた、大人のためのメルヘンである。

#### 1997 年『もののけ姫』

室町時代中期。東の果てエミシー族の里をタタリ神が襲い、その呪いを受けた青年アシタカは、呪いの真実を求めて西へ向かう。途中「シシ神の森」の存在を知り向かったアシタカは、タタラ場を営み森を切り拓こうとするエボシ御前と、森を守ろうとする「もののけ姫」と呼ばれる少女サンとの闘争に遭遇する。サンと出会ったアシタカは、人と森が共に生きていく道はないかと悩む。しかし、不老不死の力を持つシシ神の首を狙う天朝と師匠連の動きで、エボシはついに神殺しを実行し、アシタカとサンはそれを止めようとシシ神のもとへ向かう。『風の谷のナウシカ』から再び人間と自然との関わりをテーマに挑んだ大作である。

#### 2001 年『千と千尋の神隠し』

10 歳の少女千尋は引越しの途中、両親とともにトンネルの向こうにある不思議な町へ迷いこむ。そこは古くからこの国に棲む様々な神様が訪れる温泉街だった。両親を豚にされ途方に暮れる千尋を、謎の少年ハクが助ける。両親を元の姿に戻し、人間の世界へ帰れる方法はただ一つ。それは町にある巨大な湯屋「油屋」を経営する湯婆婆のもとで働くことだった。ボイラー焚きの釜爺や年上の少女リンの協力でどうにか湯婆婆に働くことを許された千尋は、名前を奪われ「千」という名前で働くことになり、様々な困難に立ち向かっていく。無気力な少女が、異界で次第に生きる力を発揮していく冒険ファンタジーである。

### 第三節 宮崎作品の共通点「女性」

全作品を見てみると、「少女、女性、老女」が登場していることがわかる。しかも、主人公は少女である場合が多い。なぜ少女なのか。それに関して監督は「少年を描くとしたら、自分の少年時代の陰影があまりにも強く投影されて、対象化しきれず、こんな純粹無垢な主人公を描くことが出来ない。少女でないと、自分の子供時代の苦悩を抜け出すことが出来ない。」と述べている。<sup>①</sup>

<sup>①</sup> 『黒澤明、宮崎駿、北野武』株式会社ロッキング・オン 1993 年 p 139

その中でも『ラピュタ』や『もののけ姫』は主人公をそれぞれ少年（パズー、アシタカ）としながらも、少女（シータ、サン）も同等の立場に置かれている。なぜなら、彼らが彼女らと出会ったことでその物語は始まるからだ。例えば、『ラピュタ』では、シータが空から降りてきたときパズーはこう言った。「君が空から降りてきたときドキドキしたんだ。きっと素敵なことが始まったんだって」。このように、シータがいなければ『ラピュタ』のドキドキするような冒険活劇は始まらなかったのである。『もののけ姫』においても、物語はアシタカが呪いの真実を探す旅というところから始まったが、サンと出会ったことで森に近い存在になり、この作品の主題ともいってよい「人と自然の対立」という方向性が濃厚になった。もしサンと出会わなければこの主題は薄くなっただろうし、アシタカはエボシに加担して森を切り開く立場にいたかもしれない。この作品は、アシタカがサンと出会ったからこそ人間と自然の対立という構図を描くことが出来たのではないか。もし出会わなければアシタカの呪いを解く鍵を見つける途方のない旅物語になったであろう。

つまりこの2作品とも少女なしには話は始まらないのだ。こういった点から少女も同等の立場（ヒロイン）に置かれていることが分かる。また、主人公以外でも女性の登場は多い。

ここで、先ほど述べた「少女、女性、老女」について、もう少し詳しく話してみようと思う。

作品全体に出てくる女性キャラクターを見てみると、あることに気付いた。それはこの「少女、女性、老女」という関係において「無垢な少女を意志の強い女性が支え、賢い老女が導く」という一定の形が見えたのである。宮崎作品において、少女はみなひたむきだ。ひたむきに取り組み課題を乗り越えようとしている。その純真無垢な姿は多くの観客の感動を呼ぶ。そして、年上の女性たち。『魔女の宅急便』のおソノさんや、ウルスラ、『千と千尋』のリンは、主人公の少女の悩みを聞いたり、ところどころで引っ張っていく、まるで姉のような存在として描かれている。一方、『ナウシカ』のクシャナや『もののけ姫』のエボシは敵対関係に置かれ、主人公と対立する重要な立場として描かれている。この年上の女性は『ラピュタ』や『トトロ』では登場していない。そこから見ると、それほど重要なポジションではないように思える。しかし、どうしても必要なのは老女の存在だ。監督が「親って言うのは敵なんです。どっかで。そうじゃなくおじいさんおばあさんは味方なんです。」<sup>②</sup>と述べるように、老女は常に主人公に優しく、困った時には助けてくれ、主人公を導く存在である。『ナウシカ』の大ババ様は

<sup>②</sup> 宮崎駿『出発点』徳間書店 1996年 p 375



古くから伝わる「青き衣を纏いて金色の野に降り立つべし」という伝説をナウシカに語り、物語のポイントとなる部分を担った。『ラピュタ』のドーラは最初こそ敵対関係にあったものの、主人公の強い味方となり、支えてくれた。『トトロ』のおばあちゃんは主人公の姉妹をいつも見守り、世話を焼いてくれる。それぞれの作品の老女がその+物語の鍵となる人物で、賢く優しく魅力のある女性として描かれている。

この女性像は言わば宮崎監督が考える「美しく無垢な少女時代を経て、したたかな女傑となり、母として子を育て、そして老いていく。」<sup>③</sup>という女性の一生ではないだろうか。

## 第二章 宮崎作品における女性

### 第一節 典型的な女性形象の分析

宮崎監督の劇場用作品としては、「ルパン三世カリオストロの城」に始まり「風の谷のナウシカ」あたりから人気を博するようになり、「天空の城ラピュタ」「となりのトトロ」に至っては知らない人はいない。その後「紅の豚」「魔女の宅急便」「もののけ姫」「千と千尋の神隠し」と次々に大ヒットを飛ばした。クラリス、ナウシカ、シータ、キキ、サツキ・メイ、ジーン・フィオ、サン、千尋。これらは作品でのヒロインである。その中でも『魔女の宅急便』のキキは少女から共感を得やすいキャラクターだろう。思春期の女の子にありがちな、おしゃれが気になったり、同世代の女の子を意識したり、男の子を気になったりという行動。また、親から離れたいと思うこと（ここでは魔女のしきたりとしての修行となっているが、親元を離れ自活することは思春期の反抗期に似ている）、悩んだりうまくいなくて落ち込むことなど、いろんな悩みを抱えながらも落ち込んだり元気になったりを繰り返して暮らしている観客である少女達に近い存在だ。実際、このキキは地方から上京してきて生活しているごく普通の女性たち、彼女たちが経験するような孤独や悩みを描いていると監督自身も述べており、ここでの魔法も誰もがもっている何らかの才能として位置付けされている。

逆に、観客である少女たちから遠い存在のキャラクターは『ナウシカ』のナウシカだろう。強く賢く優しいナウシカに尊敬に近い憧れを抱き「ナウシカのような強く優しい

<sup>③</sup> 『宮崎駿の着地点をさぐる』 p 61

女性になりたい」と思うが、共感を抱けるようなキャラクターではない。

## 第二節 女性が登場する原因

「今は大義名分の時代ではない。力で切り開いていくとか、それほどシンプルな世の中ではなく、やはり男の方が生きにくい時代ってことに間違いはない。自分の周りを見ても、元気がいいのは皆女。男共は皆オロオロしながら自分の行く末を探しているって感じ。」（『黒澤明、宮崎駿、北野武』 p 141 より）と監督が言うように、今元気がいいのは「女」である。結婚して子供が生まれても仕事を続ける女性が増え、女性の企業家も増えてきたのは、その証拠であろう。

宮崎作品の女性たちを見てみると、『紅の豚』では、飛行機を女性たち（中には老女もいる）だけで作り、『もののけ姫』では女性たちが夜通しタタラを踏み、生活の糧となる鉄を作っている。また、組織のリーダーが女性であることも多い。『ナウシカ』のナウシカは風の谷の皇女。民からの愛と信頼を一身に受け、谷を守っている。クシャナもトルメキアの皇女で、部下から慕われ抜群の統率力を発揮している。『ラピュタ』のドーラは空賊のリーダー。息子たち男たちを従えて男顔負けの行動力を発揮する。『もののけ姫』のエボシはタタラ場の首領。タタラ場の住民から絶大なる信頼を受け、神もタタリも恐れず石火矢を撃つ。『千と千尋』の湯婆婆は温泉地である油屋の経営者。大きな油屋を一人で切り盛りする。彼女たちはどの男よりも大胆で、「日本のこれまでの女性像とは違って、優れた統率力を備えた面で魅力的な人物。」「いわゆる『少女』を超越した、賢さや戦う力、そして挑む意思を持っている。」と称えられるような女性たちだ。この女性たちから分かるのは、社会の根底を大勢の女性が働いて支えているという構図である。これは、「女は自然、男は文化」という従来の構造とは異なり、「女も文化」という新しい構造を生み出しているのではないかと思う。

一方で、その周りの男たちにはどこか情けなさが漂っている。「男を主人公にすることを考えると、ものすごく屈折する。とりあえず一つの課題を超えるというところまでしかいけない。それ以上はいけない。しかし、女は課題を超えてその先もいろんなことが起こるだろうけど、この子なら何とかやっていけるんじゃないか、そう思わせてくれる」（『出発点』より）と監督が述べるように、『ナウシカ』では、巨大産業文明を作り上げたのは男性であり、その文明が滅びた後もおそらく男性が支配してきたのだろう。しかし、すでに 1000 年が過ぎたのに男性たちは為す術を知らない。腐海はますます広がり、人はマスクなしでは地上の世界に生息することすら出来ない状況

になってしまった。この危機的状況を救うことが出来るのは男性ではなく女性である。こういう認識が監督にあったのかもしれない。

このように、宮崎作品の女性たちはヒロインだけでなく誰もが魅力的で賢く優しい女性たちである。きっと監督は従来の女性像「従順」「やさしい」というイメージを打破して、新しい女性像を作りたかったのではないだろうか。それはフェミニズムというより女性に対するエールのように感じられる。

### 特别提醒：

本站所有可以免费下载的论文均为去年及之前的发表或答辩过的论文，这些论文由于都被论文数据库收录，所以大家只能参考使用，绝不能直接拿过来作为毕业论文使用，因为这些论文是不可能通过学校论文检测的，特此提醒，以免造成不良影响！论文由于超过购买时间限度或不符合新的论文要求所以可以免费下载，仅登部分论文以供参考！

另外，如果有需要本年度最新的精品论文请到论文频道购买，我们保证所购买论文的省唯一性，切实维护顾客利益！

### 购买说明：

**一，现成论文来源：**每年 11 月—5 月为毕业论文写作旺季，其余时间为需求淡季。我们的写手在写作淡季没有代写任务，这时公司会根据他们自己的喜好急专业特长写做一些论文。这是我们现成论文的来源，现成论文适合没有确定题目或者可以修改论文题目的同学购买使用。对于要求比较高，或者已经确定题目的同学只能购买代写论文。

**二，现成论文保障：**我们出售的现成论文均为我们的签约写手原创，并且是最新一季写作的论文，我们绝不会拿以前的旧论文来给大家，这样就会避免雷同现象的发生。

对于现成论文我们提供以下两种购买服务：①200 元一篇保证省唯一性，即同一篇论文在同一个省份字出售一次，这样就可以避免和同学雷同也可以避免最后的省内审稿雷同。②买断版权，只要出 500-600 元即可买断现成论文的版权（6000 字内的 500 元，6000 字以上的 600 元），即同一篇论文只出售给一个人。如果一篇论文被人 200 元买过省唯一性，就不可以再买断了，更好保证客户利益。

### 三，论文交易流程：

- 1、通过交流，确定顾客所需论文的字数，写作方向及顾客学校所在省份。
- 2、客服先发给顾客可以选的题目，顾客选几个题目，然后发给顾客这几个题目的大纲和目录等基本内容。
- 3、顾客选取一个最中意的论文，并通知客服预定，我们这里把你预定的论文保留，你去找老师，问问他大纲和题目是否合适，同时也看看题目是否跟同学重复，导师批准以后在购买论文。
- 4、为防止我们提供网上抄袭的论文或者质量不高的论文。买前可以按顾客要求发论文的某一部分给顾客看看写作质量。同时顾客可以自己到网上搜查一下题目等内容并核对是否有重复的论文。等顾客觉得没问题了再进行购买。

**注：**如果现成论文不适合您，可以进行代写，我们有数十位专业写手为您提供专业的写作服务。

### 第三節 宮崎作品から見る女性観

宮崎の作品を見続けてきた筆者には、宮崎の女性観がよく見える。

1、もっとも宮崎監督自身女性ではないので、どうしても男が描く女性ととられても仕方がないが、なにやら世界が平和であるための女性のあり方が見えて仕方がない。宮崎監督が描く作品にはおきまりタイプの脇役の女性たちが登場する。ラナやクラリス、シータのようなおしとやかだが芯がとてつもなく強い女性である。モンスリー、クシャナ、エボシ御前のような自身の目的を遂行する頭の切れる自立した女性である。ドーラや湯婆婆のようなあらゆるものを超越した独善的な女性である。また、フィオやウルスラ、トキやリンのようにカラ元気で心の優しいじゃじゃ馬女性である。サツキやキキや千尋は少女時代の成長する女性である。どれを取っても魅力あふれるキャラクターたちである。これらの女性に共通する点がある。それは、みなネアカだということである。どのような境地に追い込まれようが、必ずうまくいくと信じて、前へ前へと進んでいくのである。例を挙げれば一晩でも二晩でも語り明かしそうなのでやめるが、宮崎の作品には悲観がない。それが現代にうけている理由の一つではないかと思うのだが、その作品を構成し、生き活きとしたものに盛り上げているのが、かの女性たちであることは間違いない。

2、宮崎監督は群衆を描くのがうまい。世界広しといえど、アニメーションで自身ほど生き活きと群衆を描けるアニメーターはまずいまい。特に筆者が好きなのは、「もののけ姫」で描かれた「タタラ場」の様子である。ここは製鉄工場の町だが、女頭領のエボシ御前を筆頭にした女性中心の町なのだ。男どもは皆女性の配下のような存在で、まるでわが家を彷彿とさせる。ここでは仕事も戦争も女性が指揮をとる。病者も子供も男も女も、全員平等に生活する世界。女性の支配する世界は、きっとこんな感じになるのではないかと錯覚する。「魔女の宅急便」のおソノさん夫婦は、その縮図でもあり、なぜわが家がここに出てくるのかと目を疑った。もしかしたら、筆者が宮崎の作品が好きなのは、そんな共感が原因なのかもしれない。女性の世紀は女性が強くて当然になる。わが家は時代の最先端なのである。

3、宮崎の作品で一貫しているテーマは、人間と自然との共生である。“ナウシカ”の腐海、“ラピュタ”のシータのセリフ「土からはなれては生きられない」や、“トトロ”の森とお化けたち、“もののけ”の自然と神々たち、“千と千尋”の千尋と琥珀川等、一貫した自然観は、単に自然を大切にしようというのではなく、まさに人間と自然

とは一体なんだという哲学が感じられる。

自然には包容力がある。女性も包容力の生き物である。自然は理を整える。女性是人と人とを結びつける。そして、自然は生命を育み、女性もまた生命を育む。こうしてみると、自然とは大きな女性のように思えてならない。男どもが作ってきた歴史は、自然を破壊し、人と人とを分断する歴史であった。宮崎の作品は、それとは全く正反対の大いなる女性的なるものを感じてならない。

## 終わりに

以上、宮崎作品での女性を中心にそれぞれの作品の内容を含めて、考察した。宮崎作品には、女性に主眼を置いて描かれている作品が多くある。それは主役でなくても、準主役として、名脇役として、全ての作品にある。そして、その女性の描き方が現実以上と思えるほどに、リアルで生き活きと描かれている。それらはまるで『女性自身』が描いたかのようなリアルな女性像だと感じたりもする。

宮崎の作品を見続けてきた筆者には、宮崎の女性観がよく見える。自然には包容力がある。女性も包容力の生き物である。自然は理を整える。女性是人と人とを結びつける。そして、自然は生命を育み、女性もまた生命を育む。こうしてみると、自然とは大きな女性のように思えてならない。男どもが作ってきた歴史は、自然を破壊し、人と人とを分断する歴史であった。宮崎の作品は、それとは全く正反対の大いなる女性的なるものを感じてならない。このように、宮崎作品の女性たちはヒロインだけでなく誰もが魅力的で賢く優しい女性たちだ。きっと監督は従来の女性像「従順」「やさしい」というイメージを打破して、新しい女性像を作りたかったのではないだろうか。それはフェミニズムというより女性に対するエールのように感じられる。

最後に、この研究をするにあたり、私は何度も宮崎作品を見直した。そして感じたのは「やはりいい作品だ」ということである。元々ジブリファンということから始まった研究なので、やや主観的なところがあったかもしれない。もっと客観的な意見を加えられたらと思ったが、好きなことを研究対象にしてしまった以上、今更客観的に見ることは難しく、どうも肯定的な意見しか書けなかった。そこが少し悔やまれるところである。

## 参考文献

- |     |         |                    |
|-----|---------|--------------------|
| 叶精二 | 「宮崎駿全書」 | ( フィルムアート社、2006 年) |
| 宮崎駿 | 「出発点」   | 徳間書店 1996 年        |

キャンパスが一年中で一番美しい時期を迎え、私もいよいよ卒業になります。

この美しい大学での四年間はこれからの人生において、貴重な財産になるに違いあり

ません。この四年間、専門知識だけではなく、人間として何が必要なのか、教えてくださった先生方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

また、この卒業論文を作成するにあたり、-----大学日本学科の-----先生御多忙中いろいろ御指導と鞭撻を賜りました。ここに、心より御礼を申し上げます。

先生方々の励ましと友人の支えを忘れることなく、これからも頑張っていこうと思います。

## 文献综述

《宫崎骏全书》是由日本著名动画学者叶精二编写的，该书全面剖析宫崎骏的所有作

品，从作品的企划构思到制作、公开各个方面都进行了彻底验证。由于作者经过多年的取材，以宫崎监督为首对相关制作人员进行了精心的采访，所以这部资料详尽、集大成的《宫崎骏全书》，将把宫崎骏监督的幻想创作世界真实地还原给读者。

《出发点》是由宫崎骏著作，本书详细描述宫崎骏与动画之间的关系，内容主要分为动画的制作、工作的周边、人、书、喜爱的事物、对谈、企划书、作品等八大章节，每一章节里，宫崎骏藉由各种人事物提出他对动画的想法，阅读本书，就仿佛阅读了宫崎骏在动画上的各种努力与成就，真正进入宫崎骏的动画世界。

《感受宫崎骏》是由秦刚编写，阐述了日本著名动画电影大师宫崎骏是一位执著的追梦者，他创作的动画电影作品内涵丰富，主题深刻，耐人寻味，已成为电影艺术的经典，在世界范围内得到了广泛的认同和高度的评价。本书通过对宫崎骏主要作品的主题剖析以及文本解读，让读者全面领略动画电影大师的创作理念和精华，对动画创作和动画电影制作人员具有较高的参考价值。

《宫崎骏的感官世界》是由沈黎晖和尹丽川著作的，阐述了宫崎骏的作品，多是天马行空之作，但含有深远的寓意。这份寓意，其实都是始自对现实的不满。宫崎骏就曾表示，东京（日本）碰口碰面都是拜金主义者，人们根本不肯放弃「金钱万能」的意识。为此，宫崎骏说：「我希望能够再次藉着更具深度的作品，拯救人类坠落的灵魂。」所以，宫崎骏的每部作品，题材虽然不同，但却将梦想、环保、人生、生存这些令人反思的讯息，融合其中。宫崎骏这份执著，不单止令全球人产生共鸣，更令到日本动画，受到全世界所重视，连美国动画王国迪士尼，都要斟介宫崎骏的动画电影发行版权。宫崎骏令日本动画举世瞩目，绝对功不可没。

《『幽灵公主』的秘密》是由久慈 力在 1998 年完成著作的，讲述了宫崎骏在制作这部动画时，对其中人物的描绘，场景的制定等。宫崎大师的确在《幽灵公主》中埋藏了许多隐语，所以需要我们用心去细细揣摩。本片的女主角小桑是白狼神的女儿。人类抛弃了她，她从小在山林中长大，与狼群做伴，山林就是她的家，她为保护山林浴血奋战。然而野猪们和大猩猩并不认同她。“既不能成为世人，又不能成为狼族”，这正是小桑所处的尴尬位置。然而宫崎的手笔不仅在此。月夜，飞鸟醒来，望着伏在身旁熟睡的小桑，背景女声响起。很柔和的歌声，象是山林母亲的摇篮曲。让人不由的对这个生世奇特的女孩产生了爱怜之心——她只是个小女孩啊，为什么会有这样的命运呢？不过应该说本片是以人与自然的关系而不是人物的位置和归属作为主要内容的。